

紫の里 北広島町農園事業部

(三島食品株式会社)

<法人の概要>

所在地：広島市中区南吉島

設 立：昭和 24 年 1 月

資本金：1 億 3 千 300 万円 売上高：122 億円（平成 23 年）
（うち農業： 万円、うち農業関連事業： 万円）

役 員：6 名（うち農作業従事 1 名）

従業員数：450 名、うち農業従事者 12 名

経営面積：8ha 営農作物：赤紫蘇、広島菜

農業開始時期：平成 18 年 10 月



赤しそ刈取収穫



広島菜収穫

<農業参入に至った経緯・動機>

- ・ 赤しそふりかけ「ゆかり」の原料となる赤紫蘇を原料から一貫して栽培商品化し、安全安心の確保と高品質な原料の研究開発に取り組む。
- ・ 本業商品販売における特約店、ユーザー、消費者様から拘りの原料としてブランド力の向上に貢献している。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

- ・ 初年度は農業委員会から農地の斡旋を受け選定、その後は相対で賃借確保した。
- ・ 賃貸期間が延長緩和されたが、長期の賃借は現実的に地権者との相対では難かしさを感じる。出来ることなら法人として農地は賃貸でなく所有権を取得したい。
- ・ 本業との関連から栽培作物は決めて参入。
- ・ 機械、工場設備可能な限り補助事業を活用した。
- ・ こだわりの原料栽培と一次加工技術の実現の為にシミュレーションと計画に時間を要し、準備期間はおおよそ平成 18 年から 1 ヶ年。

＜営農開始から現在まで＞

- ・ 赤しそ、広島菜いずれも原料として 100% 自社原料使用。
- ・ 栽培は、独自の技術と現行契約産地との栽培技術交流で進行。
- ・ 作業員はすべて地元からまかない、農繁期は別途短期雇用をお願いしている。
- ・ 用地は放棄地を活用したいところだが、栽培が軌道に乗るまで数年要するため、用地の立地により賃借を進めている。
- ・ 産地特有の用地構造と土壌改良、害虫の発生と駆除について指導を受ける。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・ 栽培面積 20ha、収穫数 300 トンを推し進めているが、自社栽培は 10ha までとし、残り 10ha、150 トンは地元法人関係先で委託栽培を進め、当社で買取り、加工原料とする方向。
- ・ 農作業と労務費(除草作業)、通年作業と人員配置で採算的な課題があること。加工処理設備が 300 トンであるため、新作物の予定はない。研究開発の試験農園であることと、1 原料産地としての確立を図りたい。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

- ・ 用地の立地環境、露地・施設にせよ栽培作物と風土(気候)、土質土壌、用地構造等栽培環境を吟味する。
- ・ 周辺栽培作物(お互いの農薬ドリフト)や畦畔の維持管理費もあなどれない。



畑の水抜き作業



水稲へ防除農薬飛散で紫蘇は収穫不可